

「ポツンと一軒家」というテレビ番組を、関心を寄せながら見ている。人工衛星からの画像を使い、取材する家の見当をつけて現地に向かうドキュメンタリーになっているが、過疎、高齢に加え、住環境も過酷な僻地にありながら、何処の現場にも心温まる人たちがいて、元気なのだ。古くは戦国時代から戦後の開拓まで、歴史には描かれない民衆像に満ちたドキュメンタリーなのだ。

「釣りキチ三平の家」として公開してきた築百十年の茅葺民家が、解体されることになった。十三年前に公開された映画「釣りキチ三平」のロケに使われ、空き家であった実家を半年余りで整備して、撮影現場に提供した近野ユミ子さん夫妻の

モニュメントだったのだ。そして、北の又に暮らす家は隣の一軒だけとなり、春が来ると北の又は、「ポツンと一軒家」の風景に変わる。

ユミ子さんが中学まで過ごした時代は、林業で生活していたという。朝市の開かれる五城目の中心部から、馬場目川に沿って十九キロも遡る北の又は、平地が少なく雪もたくさん降り積もる。中学校のある杉沢へは冬の間、歩いて通ったのだろうか。

彼女の記憶によると、北の又には十軒の暮らしがあったという。四十年前程前に発行された国土地理院の地図では、北の又の台地に十二個の小さな方形のドットが記されている。ドットは建築物を

表し納屋なども含まれるが、眺めていると元気な山里の風景がよみがえってくる。

私が初めて北の又を訪れたのは、一九八二年の春であった。新緑を背景に鯉のぼりが泳ぎ、雪解け水の流れ下る光景と空気感は忘れられない。その印象が、茅葺民家を撮り続ける動機になったかもしれない。

使用した写真は一九九六年に撮影したが、十年ほどの時間を要した。積もったばかりの雪景色で撮りたいと、期待した気象予報を待つて何度も通った。左から三番目がユミ子さんの実家だ。厳しい風土は、人間性を豊かにするのか。近野さん夫妻の愛着のこもった民家が、消えようとしている。



「ポツンと一軒家」になるかも(五城目町北の又)